

# おおい 自然園

## ホトケノザ

No.151

春の花のイメージがありますが、12月頃から花を咲かせたホトケノザを田んぼの畦あぜや野原で見かけます。また、茎を触ってみると四角いことに気付くでしょう。これはシソ科植物の特徴の一つです。また、紅紫色をした花弁の形は独特で、まるで生きものが首をもたげたように見えます。葉は対生で茎を挟むように広がっていることから蓮座れんざをイメージして「仏の座」と呼ばれているのです。

ところで昆虫が少ない冬季、どのように花粉を届けるのでしょうか。虫が止まれるように花の下唇部が広がっているのですが、つぼみそのまま結実する閉鎖花も多数混じっていることから、虫に頼らなくても授粉できる仕組みも備えています。

なお、春の七草の「ほとけのざ」は、コオニタビラコ（キク科）のことで、冬季、田んぼで放射状に平たく葉を広げている様子から、仏の座、田平子たひらこなどと呼ばれてきました。



ホトケノザ

おおい自然園園長 一寸木肇

### 【おおい自然園 HP】



▲大井町の動物園や植物園を  
▲大井町の動物園や植物園を  
▲大井町の動物園や植物園を  
▲大井町の動物園や植物園を

### 【自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然を  
▲町内の身近な自然を  
▲町内の身近な自然を  
▲町内の身近な自然を